

(様式第8号)

平成27年度 函館市市民協働モデル事業実績報告書



平成28年4月25日

函館市長様

補助事業者等 住 所 [Redacted]  
団体名および 子育て支援グループ  
「マミーズ・フレンズ」  
代表者名 風 間 美 智 子 [Redacted]

補助事業等の名称 ママのためのリフレッシュ講座

平成27年4月24日付け函子母をもって補助金等の交付決定を受けた上記の補助事業等は、平成28年3月31日完了したので、関係書類を添えて報告します。

補助金等交付決定通知額 金 100,000 円  
補助金等領収済額 金 100,000 円  
補助金等領収未済額 金 0 円

## 市民協働モデル事業の実績書

事業の名称	ママのためのリフレッシュ講座
団体名	子育て支援グループ「マミーズ・フレンズ」
総事業費	130,830円 (うち自己資金 30,830円)
事業の内容(対象者, 実施方法等)	<p>(目的) 育児サポートの一環として、産後間もない母の心と体をリフレッシュ(ストレスの緩和)による、母子の健全育成を目的として実施した。</p> <p>(対象者) 函館市内に住む、生後2か月～4か月末までの乳児の母。</p> <p>(スケジュール等) 平成27年5月から平成28年3月まで、毎月1回(第3火曜日)、13:00～14:30の時間帯において、総合保健センター4階・フィットネスルーム等で開催した。(厳寒期の2月は開催しない)</p> <p>(講座の内容) インストラクターによる産後ケアのための軽い体操を行い、その間、函館市子育てアドバイザーの資格を持つ当団体のスタッフが、参加者の子ども(乳児)の託児に当たった。</p> <p>体操終了後は、読み聞かせ、参加者同士が交流するためのふれあいプログラム等により、子育ての楽しさを共有し合ってもらった。</p> <p>(事業の成果) 参加者数は、計377人(母182人、乳児180人、児のきょうだい15人)で、昨年度より10人の増加であった。</p> <p>参加者の満足度を把握するためのアンケートにおいては、ほぼ全ての参加者が「大変良かった」「良かった」と好評を得ており、また自由意見においても、体操によるリフレッシュ、参加者同士の交流による共感、託児によって日頃のストレスから解放された喜び等、満足と感謝の声で占められており、所期の目的を果たすことができたものと評価する。</p> <p>また、参加者同士連絡先を教え合うなど、講座参加を機に二次的な交流の広がりも図られており、昨今懸念される、子育て中の母の孤立化防止の一助となっている。</p> <p>さらに、当会スタッフの絵本読み聞かせや、子育て情報の提供なども好評を得ている。</p>

## 市民協働モデル事業実施による効果等調書

事業の公益性・課題の改善	<p>核家族化や、地域の子育て力の低下により、子育て世帯の孤立化や育児不安・育児ストレスが深刻化しており、ひいては児童虐待のリスクの原因ともなっている昨今、事業実施を通じて、母子の心身ともに健全な育成環境を確立する一助となることができた。</p> <p>事業の周知に当たっては、市が実施している「こんにちは赤ちゃん事業」(生後4カ月までの乳児を持つ世帯への全戸訪問)の際に、案内チラシを配付してPRすることにより、対象者となる市民ほぼ全員に情報を行き渡らせることができ、参加機会の平等性も確保された。</p>
事業の効果・成果	<p>託児付きの事業であり、参加者は一時子どもから離れて体を動かすことでリフレッシュできる上、同じ世代・同じ境遇にある参加者同士、さらには子育て経験者の集まりである当グループのスタッフらとの交流が図られたことで、子育て中の孤立感、不安感が解消され、さらにその後のネットワーク構築にもつながった。</p>
事業の具体性・実現性	<p>同様の事業をすでに平成22年度から実施しており、団体として十分なノウハウを有している。前記のとおり、対象となる市民ほぼ全員をカバーできる周知体制があり、講師および会場の確保、スタッフの役割分担等も、経験を活かしさらに円滑・効率的に実行することができた。</p>
協働の役割分担の明確化・相乗効果	<p>事業の具体的なプログラム等、企画立案や運営における自主性は確保しつつ、対象世帯全戸への周知や、乳児連れの母が支障なく利用できる衛生環境や設備を持つ施設(総合保健センター)の提供など、当グループの実施体制では対応困難な面で市が協働したことにより、効果的な支援を得られた。</p> <p>一方、参加できたアドバイザーも若干(4人)増加し、各アドバイザー間の連携が深まり、メンバー同士の気運の高まり・理解の向上を実感しており、「子どもたちが輝きひかりあふれるまちはこだて」の理念の具現化に、少しでも貢献できたものと自認している。</p>
先進性・アイデア性	<p>まだ首が十分据わらない生後2か月～4か月末の乳児を託児できる催しは、多くのニーズがありながらも実施事例が極めて少ないため、参加者からも多くの満足と感謝の声が寄せられたところであり、先進性に富み、市民の期待に応えられたものと評価している。</p> <p>毎回参加者からアンケートを取り、満足度を測るほか、意見・感想をこまめに拾いつつ、個々のスタッフの知識や特技も活かしながら、有効にプログラムにアイデアを反映させることができた。</p>
費用の妥当性・経費節減	<p>講師謝礼金は、外部から招へいたインストラクターに対し、市の基準に準拠した金額を支払った以外、託児の業務などは交通費実費分のみで有志のボランティアが受託し、経費節減に努めた。案内チラシ作成費や参加者用傷害保険料も、これまでの実績から必要枚数(件数)を十分精査し、必要最低限の経費で実施することができた。</p>

## 市民協働モデル事業の収支決算書

## 【収入の部】

(単位:円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	内 訳
函館市補助金	100,000	100,000	0	
その他補助金	0	0	0	
自己資金	30,000	30,830	830	
合計(A)	130,000	130,830	830	

## 【支出の部】

(単位:円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	内 訳	補助対象経費
報償費	50,000	50,000	0	別表に記載	50,000
旅 費	49,000	50,020	1,020		50,020
需用費	19,000	20,851	1,851		20,851
役務費	12,000	9,959	△2,041		9,959
合計(B)	130,000	130,830	830		130,830

※ 収支差額(A) - (B) 0 円

- (注) 1 収入の内訳には、金額の算出基礎その他必要な事項を記載すること。  
 2 支出の内訳は、様式第10号別表に金額の算出基礎その他必要な事項を記載すること。

## 市民協働モデル事業の収支決算の内訳

(単位:円)

項目	決算額	内訳	補助対象経費	項目小計
報償費	50,000	外部講師(インストラクター)への 謝礼金 @5,000円×10回=50,000円	50,000	50,000
旅費	50,020	託児ボランティア市内交通費 50,020円 《内訳》 5月26日分 4,580円 6月16日分 5,160円 7月21日分 5,220円 8月18日分 3,100円 9月15日分 4,000円 10月20日分 5,240円 11月17日分 5,740円 12月15日分 5,860円 1月26日分 5,640円 3月15日分 5,480円	50,020	50,020
需用費	20,851	案内チラシ印刷作成費一式 14,796円 事務用消耗品一式 6,055円	14,796 6,055	20,851
役務費	9,959	参加者加入用団体傷害保険料 9,959円 《内訳》 当初概算支払分 9,200円 確定精算後の追徴支払分 759円	9,959	9,959
合計	130,830		130,830	